

自己評価力を高める「総合的な学習の時間」の支援の在り方

秋穂町立秋穂中学校 教諭 河村 宏子

1 研究の意図

生徒が自分で課題を見付け、解決するということに重点を置いた総合的な学習の時間においては、学びの原動力である「学ぶ意欲」の継続的高まりが不可欠である。生徒の興味・関心の高い内容や体験で学習への誘いをしても、その目新しさやおもしろさ、楽しさ、不思議さだけでいろいろな問題点を克服しながら最後まで学習し続けることは難しい。

確かに、「学ぶ意欲」は外部からの働きかけによって高められることも多いが、何よりも学習者である生徒自身によって高められることが大切である。この「学ぶ意欲」を継続的に高めるためには、学習者が自らの学びとその変容をとらえ、深める視点をもつことが必要である。そのことによって、自己の成長を自覚することができ、それが自己肯定感や自己有能感、自己有用感として、「学ぶ意欲」を支え、高めていくことにつながるのである。

この自己の変容を見取り、学びによる力の伸びを自らが認識するためには、学習者自身が目標を設定し、その目標に照らして適切に自己を評価する力が重要となってくる。

そこで、本研究では、総合的な学習の時間における「自己評価力」を高める支援の在り方について、どのような内容や単元においても基本となるモデル例として、単元全体と問題解決学習の各段階ごとの学習評価計画表を提示することとした。

2 研究の内容

(1) 「自己評価力」を高めるための手立て

ア 付けたい力の焦点化

21世紀の社会の変化に対応する力という視点から付けたい力を設定する場合、社会の変化は広範囲、多岐にわたるため、必要とされる力も多種多様となり、ややもするとより具体的で細分化され過ぎた力を設定しがちである。その多くの付けたい力について評価していくことは、自ずと評価項目の増加や評価活動の煩雑化につながり、評価活動自体の形骸化を招くのではないかと考える。

また、「自己評価力」を高めるためには、学習者自身が自分は何を学んでいるのか、学んだのか、それによって自分はどのように変わったのかといったことをとらえることができるよう、学ぶことによってどのような力が付くのかということを認識しておくことが大切である。そのためには、学習者がその力を把握、検証できるように、付けたい力を焦点化しておくことが重要である。

これらのことから、総合的な学習の時間において積極的に取り入れられている問題解決学習を開拓する上で重要な基盤となると思われる次の5つの力に着目して、「自己評価力」を高めるための支援について考えた。

- ・課題設定段階における「課題設定能力」
- ・課題追究段階における「企画力」、「情報活用能力」、「コミュニケーション能力」
- ・課題解決段階における「表現力」

イ 意識的な自己評価活動の展開

「自己評価力」を高めるためには、今の自分を把握し、省察を行い、改善への努力をするという、意識的に自己を振り返る一連の活動を繰り返すことが大切である。

この自己を振り返るという活動を繰り返すことによって、前の自分よりは着実に伸びている自分を認識することができ、これが学ぶ意欲を継続的に高めることにつながるのである。

しかし、授業が終わるたびに一定の時間を取り、漠然とその日の反省や感想を中心とした振り返りの評価活動を行うと、活動時間の減少や評価意識の低下につながり、評価の形骸化を招きやすくなる。そこで、評価を授業後の反省として設定するのではなく、問題解決学習の各段階ごとの学習活動自体に、意識的に自己を振り返り、改善するための評価活動を内包させることで、学習活動と自己評価活動が同時進行で展開されるのではないかと考え、次のような手立てを取り入れた。

(ア) 多様な評価活動の導入

学習者が自己の学習過程や変容をいろいろな角度から具体的に認識できるように、各学習段階ごとに、教師との面談や対話、グループでの話し合い、発表会、説明会、意見掲示とそれに対するアドバイスといった意見交換の場を必ず一つは設定することとした。

この意見交換という活動には自己評価・相互評価・他者評価など、いろいろな評価活動が内包されており、それぞれを組み合わせながら意識的な評価活動を行うことで、「自己評価力」を高めていくことができると考えた。

例えば、自己評価と相互評価を組み合わせた話し合いや発表会といった活動を行うことで、自分と友達とのものの見方や考え方の比較・検討を行うことができ、その相違を踏まえて自己を振り返り、変容に気付き、改善の視点をもつことができるのである。

また、自己評価と他者評価（授業の中では教師からの評価）を組み合わせた対話や面談を取り入れることによって、学習の意味付け、価値付け、方向付けが行われ、自己評価の妥当性、信頼性などが高められると考えた。

(イ) 計画的な評価時間の設定

学習者が、学習による変容を自覚するためには、問題解決学習における一連の学習活動の中に内包される自己評価・相互評価・他者評価といった評価活動だけではなく、自ら目標を設定し、活動した上で、設定した目標に照らして学習活動全体をじっくり振り返るといった評価活動が大切である。

「自己評価力」を高めるためには、このような目標設定及び設定した目標に対する評価を行う時間を、単元全体の最初と最後に設定するだけではなく、問題解決学習の各学習段階において展開される付けたい力ごとの学習活動の最初と最後にも設定することが大切であると考える。

(2) 単元全体における「自己評価力」を高めるための支援と評価活動を取り入れた計画表の作成

問題解決学習を取り入れた学習を展開するという前提のもと、焦点化した付けたい力に着目しながら「自己評価力」を高めるための支援を行うためには、その単元全体を見通した支援と評価活動の計画表が必要である。この表によって、教師は単元全体を通した学習活動の流れや支援のポイントを思い描くことができる。そして、それによって、生徒の学習状況の的確な把握とそれに対する適切な支援が行われるようになると考え、次の3つの視点のもとに単元全体における「自己評価力」を高めるための支援と評価活動を取り入れた計画表（次ページ表1）を作成した。

ア 単元全体を見通した評価時間の設定

単元最初の評価目標設定においては、目標の設定自体が自己をとらえるための重要な評価活動となるので、過去の学習履歴の振り返りを十分行うための時間を設定することが必要である。

また、単元終末部の目標に対する評価の時間の中では、その学習過程で収集、蓄積された資料の選別やその価値付けが行われることが重要であり、その結果、学習履歴としての資料が残されていくのである。この資料を整理する作業のためにも、評価の時間を十分に取ることが望ましいと考える。

イ 付けたい力の具体化及び自己評価ポイントの明確化

自己評価内容が付けたい力に沿ったものとなるように、付けたい力ごとに、生徒の具体的な活動の姿とそれに対する自己評価のポイントを明確にした。

ウ 「自己評価力」を高めるための支援及び評価活動の明確化

「自己評価力」を高めるための具体的支援内容とそれをどの評価活動の中で行うのかについて明確にした。

表1 単元全体における「自己評価力」を高めるための支援と評価活動を取り入れた計画表

段階	付 け 力 た	主な学習活動	自己評価のポイント	自己評価力を高めるための支援及び学習活動に内包される評価活動	
				自己評価力を高めるための支援	自己評価・相互評価 他者(教師)評価
評価目標設定	自己評価力	・問題解決学習することで自分が付けたい力についての目標を設定する。	・これまでの問題解決学習を振り返り、より伸ばしたいこと、挑戦してみたいことなど、新たな目標を自分で設定することができたか。	・自分たちが主体的に取り組んでいく問題解決学習の中で、不得意なことをどのように克服したいのか、得意なことをどこまで伸ばしたいのかなどについて具体的に考えさせる。	・自己評価目標設定カードをもとにした自己評価 ・自己評価目標設定カードをもとにした対話による他者評価
課題設定	課題設定能力	・課題案を提示する。 ・教師との対話で課題を深める。 ・課題について相互に意見を交換する。 ・課題を練り直す。 ・課題を設定する。	・自分なりの課題案を提示することができたか。 ・他と比較したり、他の意見を取り入れたりしながら、課題を練り直すことができたか。 ・建設的なアドバイスを行うことができたか。	・教師との対話によって、自己課題をしっかりと深めさせる。 ・比較検討の目を養わせるために、課題を発表させる。 ・広い視野をもたせるために、相互に意見を交換させる。 ・他へのアドバイスによって、自己を振り返る視点をもたせる。	・ウェビングシートをもとにした自己評価 ・ウェビングシートをもとにした対話による他者評価 ・発表会での対話による相互評価 ・アドバイスカードによる他者評価 ・相互評価
課題追究	企画力	・計画立てるために情報を収集する。 ・活動の計画を立てる。 ・計画について相互に意見を交換する。 ・計画について保護者の意見を聞く。 ・計画を練り直す。	・企画に向けて情報の収集や活用ができるか。 ・実行可能な現実的な計画が立てられたか。 ・アドバイスをもとに計画を練り直すことができたか。	・教師との対話によって、必要項目を絞り込ませる。 ・他の企画案と比較させることで、緻密さの目を養わせる。 ・現実的な視点をもたせるために、保護者など外部からの意見を取り入れさせる。	・学習計画案をもとにした自己評価 ・学習計画案の比較による相互評価 ・学習計画案をもとにした対話による外部(保護者)評価 ・学習計画案をもとにした対話による他者評価
	情報活用能力	・課題解決に必要な情報を収集する。 ・情報を吟味、選択する。 ・相互情報交換をする。	・幅広い範囲から情報を収集することができたか。 ・情報を比較、検討し、必要なものだけ選択することができたか。 ・情報活用のマナーはよかつたか。	・偏りのない情報収集について考える。 ・情報を比較、検討する視点をもたせる。 ・情報を取捨選択、保存する基準作りをさせる。 ・情報に左右されない、客観的視点をもたせる。 ・情報活用のマナー、ルールについて意識させる。	・収集方法、視点について収集された資料をもとにした自己評価 ・情報交換による他者評価 ・情報吟味段階での対話による他者評価
	コミュニケーション能力	・体験活動の事前準備をする。 ・相手意識をもった活動をする。 ・積極的にコミュニケーションを図る。 ・体験活動の事後処理をする。	・無理のない体験活動計画が立てられていたか。 ・体験活動のための事前準備はできていたか。 ・工夫し、積極的にコミュニケーションことができたか。 ・体験活動後の事後処理はきちんとできただか。	・体験活動計画を立て上で相手意識をもつことの重要性に気付かせる。 ・必要な体験活動かどうか吟味させる。 ・相手意識やマナーについて意識させるために、意思疎通のための工夫をさせる。 ・ただのイベントに終わらせないようするために、体験活動で学んだことを振り返らせる。	・体験先からの外部評価 ・計画と実際の体験活動との比較による自己評価 ・体験後の意見交換による相互評価 ・映像等による自己評価・相互評価 ・体験活動全体を通しての対話による他者評価
課題解決	表現力	・情報収集により分かったことをまとめる。 ・体験活動を通して学んだことをまとめる。 ・相手意識をもって発表をする。 ・発表について意見を交換する。	・収集、選択した情報や体験活動内容をもとに課題について自分の意見をまとめることができたか。 ・相手意識をもって分かりやすく発表することができたか。	・蓄積した情報を精選する視点をもたせる。 ・多くの視点からものを見たり、考えたりさせるために、収集した情報と体験で得た情報について比較検討させる。 ・相手に伝えることによって、自分の得た知識や感動が確かなものになることに気付かせる。	・ポートフォリオをもとにした自己評価 ・発表資料作成における自己評価・他者評価 ・発表会での相互評価・他者評価
全体評価	自己評価力	・ポートフォリオをもとに学習活動全体を振り返る。 ・学習についての課題や改善点を見付ける。 ・新たな課題意識をもつ。	・一連の課題追究過程における自己的な取組みについて振り返ることができたか。 ・学習活動の課題や改善点を見付けることができたか。 ・新たな課題意識がもてたか。	・新たな自己発見につなげさせるために、ただの感想に終わらせることなく、自己的成長目標に沿って分析させる。 ・評価の客観的視点をもたせるために、自己評価と相互評価、他者評価などとの比較をさせる。	・ポートフォリオをもとにした自己評価・相互評価 ・自己評価目標設定カードをもとにした自己評価 ・自己評価目標設定カードをもとにした対話による他者評価

(3) 各学習段階ごとの「自己評価力」を高めるための手立てを盛り込んだ学習評価計画表の作成
生徒の学びの進展に寄り添いながら指導や支援を行う上で大切なことは、教師が生徒の学習内容を的確にとらえることである。そのためには、生徒の学習活動とそれに対する指導や支援の手立てが一目で分かるような学習評価計画表を作成することが大切であると考えた。

ア 学習評価計画表作成の視点

(ア) 学習活動に内包される評価活動の意識化

生徒の学習活動やそれに対する教師の指導や支援の中に、日常的に内包されている自己評価・相互評価・他者評価といった評価活動を教師が意識することが生徒の「自己評価力」を高めるためには重要である。

相互評価や他者評価を内包している学習活動をどの段階で取り入れ、組み合わせていくのかを、あらかじめ決めておくことは、教師の適切な指導や支援につながり、そのことが「自己評価力」を高めるためには有効であると考える。

(イ) 評価時間の設定

単元全体において目標設定及びそれに対する評価の時間を設定するだけでなく、各学習段階ごとにも目標設定及びそれに対する評価の時間を十分に取ることが、生徒自らが自らの学習過程を客観的に振り返るために必要だと考える。

また、学習活動と並行して評価活動を行うと、評価内容が那一単位時間の学習活動についての反省や感想に陥る可能性があるとともに、焦点化した付けたい力についての自己の変化を見取るには、その変化があまりにも微細でとらえにくいということも考えられる。

これらのことから、各学習段階ごとに、課題解決のための時間とは別に、目標設定及びそれに対する評価の時間を、確実に設定することが大切であると考える。

(ウ) 評価資料の決定

総合的な学習の時間においては、生徒の学習状況をとらえる資料は多種多様となり、そのすべてについて評価し、支援の手立てを講じていくことは評価の複雑化を招くと考える。そこで、生徒のどの評価資料から学習の実現状況を判断するのかをあらかじめ決めておくことが大切であると考える。

(エ) 目標の明確化

生徒の学習活動とそれに対する教師の支援の手立てが一对一で対応するようにそれぞれの活動に対しての目標を明確にするために、評価の規準を設定しておくことも大切である。

生徒の学習活動とそれに対する評価資料・評価規準・評価基準・努力を要する生徒への支援内容がそれぞれ対応するような学習評価計画表を作成し、活用することで、評価から支援へと円滑につなげることができると考えた。

イ 学習評価計画表の形式

次ページの表2に示した学習評価計画表の形式は、前述アの(ア)～(エ)で示した学習評価計画表作成の視点に基づき、問題解決学習を行う上で、どのような内容や単元になども基本となるモデル例として考えたものである。この形式の工夫点は次の4つである。

- ・各学習活動の全体の流れが分かるように、問題解決学習の各段階で付けたい力ごとに1枚の学習評価計画表を作成した。
- ・「自己評価力」を高めるための手立てとしての目標設定、評価の時間を各学習活動の前後に配置した。

- 生徒の意識的な評価活動を教師が支援しやすいように、具体的な単元内容を追究する生徒が行う学習活動自体に、どのような評価活動が内包されているかを示した。
- 生徒の学習活動とそれに対する教師の指導・支援が円滑に行われるよう、生徒の学習活動一つ一つにそれを見取るための評価資料・評価規準・評価基準を対応させ、努力を要する生徒への支援も即座に行えるようにした。

表2 課題設定段階における学習評価計画表

学習段階	時間(計)	学習活動	指導・支援	学習活動に内包される評価活動		評価資料	評価規準	評価基準		努力を要する生徒への支援
				自己評価・相互評価・他者(教師)評価	評価規準			満足できる	おむね満足できる	
課題設定段階	評価目標設定 1 (1)	①「課題を作る」活動を通して自分が付けたい力を書く。	・課題内容、設定方法について見通しをもった目標を立てさせる。 ・学習としての視点を意識させる。 ・学習後、設定した目標について振り返ることを知らせておく。	評価規準 学習目標についての自己評価1 教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	・課題や設定方法について具体的に詳しく書いている。	・課題や設定方法について具体的に詳しく書いている。 ・どのような課題にしたいか、どんな手順で決めたらよいか書いている。	・今までの課題設定で困ったことや反省点から考えてみるよう促す。		
	0.8 (1.6)	②〇〇についてウェビングをする。	・発想の乏しさ、狭さ、偏りなどに気付かせる。 ・学習の課題として追究する価値があるかの視点をもたせる。	課題の素材探し 教師からの評価 ウェビングシートを使っての面談・対話	ウェビングシート	・ウェビングによって課題を考えている。	・思考の広がりをもったウェビングをしている。	・いくつかの方に向に向かってウェビングをしている。	・教師との対話によって連想が広がるように支援する。	
	0.2 (2)	③課題案1を設定し、掲示する。	・廊下に掲示することで、自分の課題に責任をもたせるとともに、友達の課題と比較して考えさせる。	課題案1 教師からの評価 自己評価1	掲示課題用紙	・課題案1を掲示し、比較して考えている。	・自他の課題を比較して考えを広げている。	・課題を掲示し、自他の課題を比較している。	・掲示された課題を参考にするよう助言する。	
	授業時間外 0.0	④友達の課題案1についてのアドバイスカードを書いて貼る。	・責任をもって意見を書くことで課題の価値について考えさせる。 ・掲示された多くの意見に触れることで、多面的な考え方方に気付かせる。 ・カードは全教員・生徒に記入依頼をする。	課題についての自己評価1 教師からの評価+相互評価(付箋方式) アドバイスカードによるアドバイスや質問	友達へのアドバイスカード	・アドバイスカードに意見を書いて貼っている。	・相手の立場に立って、アドバイスをしている。	・前向きな意見を書いて貼っている。	・気付いたことや感想を書くように支援する。	
	課題設定段階 1 (3)	⑤アドバイスカードをもとに課題案1を練り直し、課題案2を設定する。	・アドバイスや質問への答えを探ることで課題を深めさせる。 ・資料なども活用させる。 ・課題案2について発表できるように設定理由、追究の見通しなどを考えさせる。	課題案2 教師からの評価 自己評価2	課題練り直しシート	・アドバイスを参考に課題案2を設定しようとしている。	・他者からの意見を参考にし、自分の課題の問題点、改善点を考えている。	・他者からの意見を参考にし、自分の課題の問題点、改善点を考えている。	・掲示された課題や他からの意見への回答を考えさせて見直しを促す。	
	1 (4)	⑥課題案発表会をする。	・課題案2について分かりやすく説明させ、質疑応答によって、考えを深めさせる。	教師からの評価 質疑応答による対話	発表会 質疑応答会	・課題を分かりやすく伝えている。	・課題について意見交換をしている。	・課題を発表し、意見を聞いている。	・発表メモ作成の手助けや発表の仕方の助言をする。	
課題解決段階	0.5 (4.5)	⑦課題発表会を受けて、課題案2を練り直す。	・質疑応答で困ったこと、気付いたことなどをもとに課題を練り直させる。 ・資料なども活用させる。	課題練り直しシート	・課題の練り直しをしている。	・質疑応答をもとに課題を練り直している。	・他者の意見を参考にして練り直している。	・他者の発表を参考にして考えられるように支援する。		
	0.5 (5)	⑧課題を設定する。	・多くの意見を加味した課題になっているか検証させる。 ・課題解決に向けての見通しを書かせる。 ・課題の深まりについての振り返りをさせ、課題の価値について考えさせる。	課題 課題についての自己評価3 教師からの評価 課題練り直しシートやメモを使っての面談・対話	課題提出シート	・課題とその設定理由について説明している。	・課題の深まりの過程を押さえながら課題とその設定理由を説明している。	・課題とその設定理由について説明している。	・友達の課題や意見を参考に課題が設定できるように支援する。	
評価 1 (6)	⑨「課題を作る」活動に対する評価をする。	・課題設定過程全体について、学習前の目標に照らして振り返りをさせる。 ・課題づくりについて今後の課題を明確にさせる。	評価規準 学習目標についての自己評価2 教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	・目標に照らした自己評価をしている。	・活動全体を振り返り自己評価をしている。	・目標に沿って自己評価をしている。	・評価資料をもとに学習の軌跡を確かめながら振り返るよう促す。		

この学習評価計画表を、各学校の実情に合わせて具体的な単元内容で活用する場合、基本となる部分と、応用され変化する部分が出てくる。応用され変化する部分は、次の4つの項目である。

①時間数、②評価規準、③評価基準、④努力を要する生徒への支援

①の時間数は各学校で設定される総合的な学習の時間の総時間数をもとに立てられる年間指導計画におけるそれぞれの単元への配当時間数によって変わる。

また、②③④の規準等はその学校の実情や生徒の実態の違いにより変わるものであり、それに伴い文章表現も変わってくる。

なお、次ページからの表3～表6は各問題解決段階ごとの学習評価計画表の例となっている。

表3 課題追究段階（企画力育成）における学習評価計画表

学習段階	時間(計)	学習活動	指導・支援	学習活動に内包される評価活動		評価資料	評価規準	評価基準		努力を要する生徒への支援
				自己評価・相互評価・他者(教師)評価				満足できる	おおむね満足できる	
課題追究段階（企画力育成）	1	①「学習計画を立てる」活動で自分が付けたい力を書く。	<p>・実現可能な学習計画を立てるための視点に気付かせる。 ・学習後、設定した目標について振り返ることを知らせておく。</p>	評価規準 評価標準 学習目標についての自己評価1	教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	・実現可能な学習計画を立てるための手順や留意事項について具体的に書いている。	・学習計画を立てる上で大切なことを、気を付けていいことを書いている。	・今までの学習計画で困ったことや反省点から考えてみるよう促す。	
				追究内容 追究内容についての自己評価	教師からの評価 ウェビングシートを使っての面談・対話	ウェビングシート	・複数の視点から追究内容の分類、選択をしている。	・追究内容の分類、選択を行い、学習の優先順位を示している。	・いくつかの視点で追究内容を分類、選択している。	・知りたいことや疑問点、問題点を書くように支援する。
				追究方法 追究方法についての自己評価	教師からの評価 学習計画表を使っての面談・対話	学習計画表	・追究内容ごとに情報収集方法やそれにかかる諸条件を書いていている。	・追究内容ごとに実現可能な範囲で、情報収集方法やそれにかかる諸条件を具体的に書いてている。	・追究内容ごとに情報収集するために必要な範囲で、情報収集方法やそれにかかる諸条件を書いていている。	・これまでの学習における情報収集の仕方をもとに考えることについて書いている。
				学習計画案1	教師からの評価+相互評価 質疑応答による対話	学習計画表1	・学習時間内で実現可能な計画にしようとしている。	・時間を有効に使いながら多くの成果が上がるようと考えている。	・時間内に無理のない情報収集を計画している。	・時間配分を考えながら計画が立てられるよう支援する。
				学習計画についての自己評価1	学習計画表1	・相違点と立案基準について意見交換を行っている。	・項目ごとに他者の意見と異なるところをメモしている。	・自分の意見と異なる他者の意見をメモしている。	・他の意見をできるだけメモするよう助言する。	
				学習計画案2	学習計画表1	・計画を練り直している。	・意見の選択をして練り直しをしている。	・意見を参考に計画を練り直している。	・意見ごとに見直すように助言する。	
				学習計画についての自己評価2	学習計画表2	・自他を比較している。	・比較して課題ごとの重点の違いに気付いている。	・比較して違いに気付いている。	・自分にないところ見付けるように助言する。	
				保護者からの評価 学習計画表への7ドバイスや質問	7ドバイス付与学習計画表2	・保護者のアドバイスを受けている。	・質疑応答をした上で、アドバイスを受けている。	・説明をして、アドバイスを受けている。	・質問を受けてくるよう助言する。	
授業時間外	1	⑨アドバイスカードを書いて貼る。	<p>・責任をもって意見を書くことで計画の現実的見方をもたせる。 ・掲示された多くの意見に触れることで、多面的な考え方方に気付かせる。</p>	教師からの評価+相互評価(付箋方式) 7ドバイスカードによる7ドバイスや質問	友達へのアドバイスカード	・アドバイスカードに意見を書いて貼っている。	・相手意識をもちながら、現実的視点でアドバイスをしている。	・質問やアドバイスを書いて貼っている。	・気付いたこと、感想を書くように支援する。	
				学習計画 学習計画についての自己評価3	提出用学習計画表	・実現可能な計画を立てている。	・実現可能な計画を立てるとともに予備案も考えている。	・実現可能な計画を立てている。	・他者からの意見や友人の計画を参考にして計画を立てるよう助言する。	
評価	1	⑩他者からのアドバイスをもとに最終的な学習計画を立てる。	・アドバイスや質問への答えを探ることで計画の見直しをさせる。 ・多くの意見を加味した実現可能な学習計画になっているか検証させる。	教師からの評価 学習計画表やメモを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	・目標に照らした自己評価をしている。	・計画案の改善過程を押さえながら自己評価をしている。	・目標に沿って自己評価をしている。	・評価資料をもとに学習の軌跡を確かめながら振り返るように促す。	
	(8)	⑪「学習計画を立てる」活動に対しての評価をする。	・計画案の改善過程全体の振り返りをさせ、計画を練ることの価値について考えさせる。 ・学習計画を立てることについて今後の課題を明確にさせる。	学習目標についての自己評価2						

表4 課題追究段階（情報活用能力育成）における学習評価計画表

学習段階	時間(計)	学習活動	指導・支援	学習活動に内包される評価活動 自己評価・相互評価・他者(教師)評価	評価資料	評価規準	評価基準		努力を要する生徒への支援
							満足できる	おおむね満足できる	
課題追究段階（情報活用能力育成）	評価目標設定	1 (1)	①「情報を活用する」活動で自分が付けたい力を書く。	・多面的な情報収集のための視点に気付かせる。 ・収集だけでなく、選別、蓄積場面についても考えさせる。 ・学習後、設定した目標について振り返ることを知らせておく。	評価規準 教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話 学習目標についての自己評価1	・自己評価目標設定カード	・情報活用全体を通じての目標を書いている。	・情報活用の方法だけではなくマナーについても具体的に書いている。	・情報活用を行う上で大切なことを、気を付けたいことを書いている。
			②情報活用計画を立てる。	・計画性をもって情報収集することの大切さに気付かせる。 ・情報収集方法（収集先、収集場所、収集方法など）と収集できる情報の予想を具体的に挙げさせる。 ・時間面、施設面、金銭面、安全面や相手意識という視点をもたせる。	情報収集計画 教師からの評価 情報収集の計画表を使っての面談・対話 情報収集計画についての自己評価	・情報収集の計画表	・多方面から情報収集計画を立てている。	・効率のよい、具体的情報をもった情報収集計画を立てている。	・諸条件を加味した、多方面からの情報収集計画を立てている。
		3 (5)	③情報収集活動をする。	・情報収集が円滑に行われるよう計画と経過内容を照らし合わせながら方針修正させる。 ・収集した情報については後の活用を考え、散逸や不明箇所が出ないように蓄積方法を考えさせる。	情報収集 教師からの評価 情報収集の計画表を使っての面談・対話 情報収集についての自己評価1	・情報収集の計画表・収集資料・メモ	・計画に沿った収集活動を行っている。 ・収集した情報の蓄積をしている。	・計画を検証、修正しながら収集活動を行っている。 ・取捨選択を行ながる情報の蓄積をしている。	・計画どおりに収集活動を行おうとしている。 ・収集した情報の蓄積をしている。
	1 (6)	④収集した情報の整理をする。	・収集した情報を課題解決段階で活用できるように、重要箇所などに印を付けるなどして、分類、整理させる。	・収集した情報の整理をする。 教師からの評価 資料をもとにした面談・対話 情報収集についての自己評価2	・収集資料・メモ・ファイル	・収集した情報の分類をしている。	・キーワードをもとに使いやすいように項目ごとに分類している。	・収集した情報の選択、分類をしている。	・収集した情報を見直しながら、分類して蓄積するよう助言する。
		⑤収集した情報や整理について活用という視点から考え方とする。	・情報収集や整理について活用という視点から考えさせる。	・収集資料・メモ・ファイル 教師からの評価+相互評価 質疑応答による対話 情報収集についての自己評価3	・収集資料・メモ・ファイル	・お互いの情報収集、整理の仕方に意見交換している。	・友達の情報収集、整理の仕方のよいところを吸収しようとしている。	・お互いの情報収集、整理の仕方について意見交換している。	・友達の情報の収集、整理の仕方のよいところを見付けるように促す。
	1 (7)	⑥「情報を活用する」活動に対する評価をする。	・情報収集、蓄積、選択、整理といった一連の活動全体の振り返りをさせ、活用できる情報の獲得の仕方について考えさせる。 ・情報を活用することについて今後の課題を明確にさせる。	・情報収集、蓄積、選択、整理といった一連の活動全体の振り返りをさせ、活用できる情報の獲得の仕方について考えさせる。 ・情報を活用することについて今後の課題を明確にさせる。	教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話 学習目標についての自己評価2	・自己評価目標設定カード	・目標に照らした自己評価をしている。	・計画案の改善過程を押さえながら自己評価をしている。	・目標に沿って自己評価をしている。
									・評価資料をもとに学習の軌跡を確かめながら振り返るよう促す。

表5 課題追究段階（コミュニケーション能力育成）における学習評価計画表

学習段階	時間(計)	学習活動	指導・支援	学習活動に内包される評価活動		評価資料	評価規準	評価基準		努力を要する生徒への支援
				自己評価・相互評価・他者(教師)評価	満足できる			おおむね満足できる	満足できる	
課題追究段階（コミュニケーション能力育成）	評価目標設定	1 (1)	①「コミュニケーションを図る」活動で自分が付けたい力を書く。	・意思疎通という視点での目標を設定させる。 ・学習後、設定した目標について振り返ることを知らせておく。	評価規準 ・自己評価カード ・コミュニケーションを図るために課題や心構えなどについて考えていく。	教師からの評価 ・学習目標についての自己評価 1	・自己評価目標設定カード	・意思疎通のための課題や心構えなどについて考えていく。	・コミュニケーションを図る上で心がけたことを挙げている。	・コミュニケーションを図る上で困ったことや反省点から考えてみるように促す。
	1 (2)	②体験活動計画を立てる。	・計画的な体験活動をすることの重要性を押さえ ・体験先の情報収集から活動予想、打ち合わせ方まで具体的に挙げさせる。 ・相手意識をもった計画についても考えさせる。	体験活動計画 ・体験活動計画についての自己評価	・体験計画表 ・多方面から的情報収集計画を立てている。	・効率のよい、具体性をもった情報収集計画を立てている。	・諸条件を加味した、多方面から情報収集計画を立てている。	・具体的な収集活動の流れが考えられるよう、複数の情報収集先を提示しながら支援する。		
	1 (3)	③体験先との折衝、インタビュー原稿を作る。	・予備連絡、依頼、質疑応答におけるポイントを考えさせる。 ・相手意識をもったコミュニケーションの視点をもたせる。	インタビュー原稿 ・コミュニケーションについての自己評価 1	・インタビュー原稿 ・相手意識をもった原稿を書いている。	教師からの評価 ・インタビュー原稿を使っての面談・対話		・場の状況や相手を想定しながら原稿を書いている。	・相手意識をもった原稿を書いている。	・公私の区別を考えながら書くよう助言する。
	1 (4)	④個人の体験計画の検討をもとに、グループでの体験計画を立てて、意見交換をする。	・比較検討が行いやすいように、体験先別グループ分けをしておく。 ・グループ全員にとってよりよい計画となるようにしてから意見交換をさせる。	・コミュニケーションについての自己評価 2	・意見交換をしながらグループでの体験計画を立てている。	・意見交換をしながらよりよい計画を立てようとしている。	・意見交換をしながらグループでの体験計画を立てている。	・意見交換をしながら耳を傾け、話し合うように助言する。		
	2 (5)	⑤インタビュー原稿の検討をする。	・グループとしての責任あるインタビュー内容となるための意見交換をする。 ・全員がインタビュー体験ができるように設定する。	・コミュニケーションについての自己評価 3	・意見交換をしながらグループの原稿を練っている。	・意見交換をしながら内容の推敲や言葉の吟味をしている。	・意見交換をしながらグループの原稿を練っている。	・意見交換をしながら他者の意見をメモするよう促す。		
	1 (6)	⑥体験事前交渉、申し込みをする。	・交渉におけるマナー等への注意を喚起し、不都合が生じた場合の対応についても準備させておく。 ・打ち合わせにおける詳細なメモの必要性に気付かせる。	・コミュニケーションについての自己評価 4	・インタビュー原稿・メモ ・相手意識をもった応答を書いている。	・外部（体験先の方からの）評価応答による手応え相互評価観察	・臨機応変に応答をしている。	・相手意識をもった応答をしている。	・想定問答集をもとに回答できるよう支援する。	
	2 (8)	⑦体験活動をする。	・学校として受け入れ依頼を行うとともに、評価についても協力依頼をしておく。 ・情報メモや活動記録の蓄積への注意を喚起しておく。	・コミュニケーションについての自己評価 5	・活動記録・メモ ・場に応じたコミュニケーションを行っている。	・臨機応変に対応しながら確実に情報収集をしている。	・場に応じたコミュニケーションを行っている。	・インタビュー原稿をもとに質問し、メモするよう促す。		
	1 (9)	⑧体験活動についての検討会をする。	・コミュニケーションを図るという視点からお互いの活動を振り返らせる。 ・体験先からの評価等も参考にして自分の成果をまとめさせる。	・コミュニケーションについての自己評価 5	・活動記録・メモ ・外部評価表	・お互いへの気付きをもとに意見を交換している。	・具体的な場面を挙げながら意見を交換している。	・お互いへの気付きをもとに意見を交換している。	・メモや記録の中から気付きを述べるように促す。	
	評価	1 (10)	⑨「コミュニケーションを図る」活動に対する評価をする。	・目標設定から体験活動まで、全体の振り返りをさせる。 ・コミュニケーションについて今後の課題を明確にさせる。	・学習目標についての自己評価 2	・教師からの評価 ・自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	・自己評価目標設定カード	・目標に照らした自己評価をしている。	・学習過程での気付きを客観的に振り返りながら自己評価をしている。	・目標に照らした自己評価をしている。
										・評価資料をもとに学習の軌跡を確かめながら振り返るように促す。

表6 課題解決段階（表現力育成）における学習評価計画表

学習段階	時間(計)	学習活動	指導・支援	学習活動に内包される評価活動		評価資料	評価規準	評価基準		努力を要する生徒への支援
				自己評価・相互評価・他者(教師)評価	評価規準			満足できる	おむね満足できる	
課題解決段階（表現力育成）	○○についての発表	①「発表をする」活動で自分が付けていた力を書く。	・「伝える」、「伝わる」という視点で目標を考えさせる。 ・学習後、設定した目標について振り返ることを知らせておく。	評価規準 教師からの評価 学習目標についての自己評価1	自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	表現の工夫についての目標を書いている。	・伝達するということに視点を置いた目標を具体的に書いている。	・表現の工夫についての目標を書いている。	・今までの表現活動で困ったことや反省点から考えてみるように促す。
		②発表内容を決める。	・課題解決にしたがって根拠となる資料をもとに説得力のある内容を考えさせる。 ・必要性や重要性、視覚的効果などの視点をもたらせる。	発表内容 追究内容についての自己評価	教師からの評価 発表計画表を使っての面談・対話	発表計画表	根拠をもとに結論を導いている。	・複数の根拠を挙げて結論の説得力を高めている。	・根拠を挙げながら結論を述べている。	・結論の根拠を押さえるように促す。
		③発表方法を考える。	・発表方法、資料内容などを具体的に挙げさせる。 ・学校教育の範囲内（時間面、施設面、金銭面、安全面のなど限界をもつ）や相手意識という視点から考えさせる。	発表方法 発表方法についての自己評価	教師からの評価 発表計画表を使っての面談・対話	発表計画表	効果的な発表方法を考えようとしている。	・発表内容や伝達する相手を念頭に置いて効果的な発表方法を考えようとしている。	・効果的な発表方法を考えようとしている。	・これまでの学習における発表の仕方をもとに考えるよう助言する。
		④発表に向けての計画を立てる。	・発表に向けて必要な活動、時間、道具、予算、配慮事項や予想されることなどを押さえさせる。	発表計画案1 発表計画についての自己評価	教師からの評価 発表計画表を使っての面談・対話	発表計画表	学習時間内で実現可能な計画にしようとしている。	・時間を有効に使いながら多くの成果が上がるようと考えている。	・無理のない発表の準備計画を立てている。	・時間配分を考えながら計画が立てられるように支援する。
		⑤発表資料、原稿を作る。	・伝えたいことが伝わるためににはどのような工夫をしたらよいか考えさせる。 ・精選という視点をもたらせる。	発表資料、原稿 発表資料原稿についての自己評価1	教師からの評価 発表資料、原稿を使っての面談・対話	発表資料、原稿	発表の仕方を工夫しようとしている。	・分かりやすい発表に向けて効果的な工夫をしている。	・発表の仕方を工夫しようとしている。	・言いたいことが伝わるような資料、原稿づくりを支援する。
		⑥グループ内発表会をする。	・比較検討が行いやすいように課題別グループ分けをしておく。 ・内容、方法、条件（時間、見やすさなど）について、検討させる。	発表資料原稿についての自己評価2 教師からの評価+相互評価	発表資料原稿+相互評価質疑応答による対話	発表資料、原稿 ・メモ	自分と違う意見をメモしている。	・項目ごとに他者の意見で必要なところをメモしている。	・自分と違う意見をメモしている。	・他の意見をできるだけメモするように助言する。
		⑦発表内容、方法、資料の見直しをする。	・他者からの指摘や比較による気付きをもとに発表を練り直させる。			発表資料、原稿 ・メモ	意見を参考に練り直している。	・意見を参考によりよく改善しようとしている。	・意見を参考に練り直そうとしている。	・意見ごとに見直すように助言する。
		⑧発表をする。	・話すことだけではなく、聞くことにおいても相手意識をもった発表をさせる。		教師からの評価+相互評価コメントカード、質疑応答による対話	発表資料、原稿	自信をもって発表している。	・相手意識をもって発表している。	・自信をもって発表している。	・発表態度で参考となるところをメモするように促す。
		⑨発表のまとめをする。 (コメントカードの交換)	・相手の立場を尊重した承認と助言という視点をもたせる。 ・多様な見方によるコメントを振り返りの参考にさせる。	発表資料原稿についての自己評価3	発表資料原稿・コメントカード、質疑応答による対話	発表資料、原稿 ・コメントカード	発表の振り返りをしている。	・コメント内容の分類をしながら振り返っている。	・発表の振り返りをしている。	・気付いたこと、感想を書くように助言する。
		⑩「発表をする」活動に対しての評価をする。	・表現内容の深まりについての振り返りをさせ、表現を練ることの価値について考えさせる。 ・表現活動について今後の課題を明確にさせる。	学習目標についての自己評価2 教師からの評価 自己評価目標設定カードを使っての面談・対話	自己評価目標設定カード	目標に照らした自己評価をしている。	表現内容の改善過程を押さえながら自己評価をしている。	・目標に沿って自己評価している。	・目標に沿って自己評価している。	・評価資料をもとに学習の軌跡を確かめながら振り返るように促す。

(4) 学習評価計画表と連動した自己評価目標設定カードの作成

生徒自身が、自分のめざしたい目標を適切に設定し、その目標に向かっての学びの道筋を立てるためには、自己評価目標設定カードを作成することが大切であると考えた。

ア 自己評価目標設定カード作成の視点

自己評価目標設定カードを作成する視点として大切なことは、それが生徒自身による学びの方向付けや価値付けの助けとなるものでなければならないということである。

学びの方向付けをするためには、この学習評価目標設定カードによって、生徒自身がその学習段階で展開される学習内容や学習活動を予測することができるとともに、その学習によってどのような力が付くのかということを知ることができることが重要である。

また、学びの価値付けをするためには、生徒自身が自分の学習状況を認識し、判断するための基準をもつことが必要である。この基準は生徒が自分の学習の状態を踏まえて設定することが大切であるが、生徒だけで学習活動全体を見通して基準を設定するのは難しい。

そこで、生徒が基準を設定するための助けとして活用できるのが、前述の学習評価計画表である。この学習評価計画表は各学習段階の付けたい力ごとに作成されているので、それぞれの具体的な活動を想定しながら基準を設定していくことができる。そして、教師も生徒の具体的な目標を知ることができるので、学びに寄り添った適切な支援を行うことができるを考える。

イ 自己評価目標設定カードの形式

学習評価計画表をもとにして生徒の自己評価目標設定カードを作成する上で重要なことは、生徒が利用しやすいように、生徒の発達段階や学習履歴を考慮した文章表現とするということである。

このことを留意しながら学習評価計画表の項目をもとにして、自己評価目標設定カードの項目（図1）を設定し、自己評価目標設定カードを作成した。

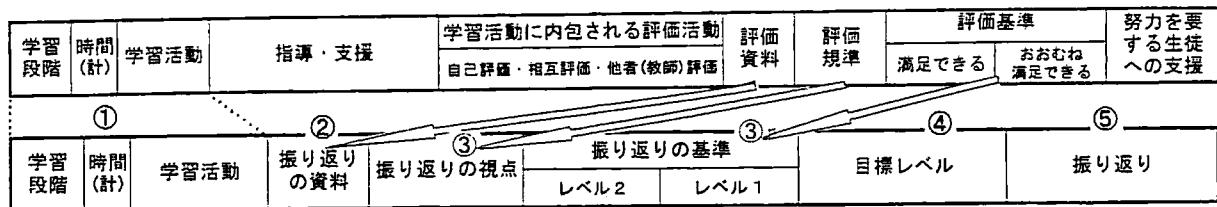


図1 「学習評価計画表」の項目と「自己評価目標設定カード」の項目の関係

作成上の視点として考えたのは、次の5つである。

- ①学習を展開する上で基本となる時間や学習活動の欄はそのまま移行する。
 - ②評価資料は、振り返りの資料として提示し、学習後の振り返りの段階で活用することを認識させることで、学習過程での収集、蓄積に対する意識を高める。
 - ③評価規準は振り返りの視点として、評価基準は振り返りの基準として提示しておく。この振り返りの視点や基準を提示することは、生徒が自分の目標レベルを考える際の参考となると考えるからである。
 - ④学習段階の最初に全体の流れに沿って自分がめざす目標レベルと学習段階全体を通しての自己目標を記入する欄を設ける。
 - ⑤学習段階が終了した後の評価の時間に目標レベルに対する振り返りと活動全体の目標に対する振り返りを記入する欄を設ける。
- なお、次ページの図2は課題設定段階における自己評価目標設定カード及び記入例である。

「食生活から生き方を考えてみよう」課題設定段階における自己評価目標設定カード
3年組番 氏名

学習段階	時間(計)	学習活動	振り返りの資料	振り返りの視点	振り返りの基準		目標レベル	振り返り
					レベル2	レベル1		
評価目標設定段階	1 (1)	①「課題を作る」活動を通して自分が付けていた力を書く。	・自己評価目標設定カード	・課題や設定方法についての目標を書いている。	・課題や設定方法について具体的に詳しく書いている。	・どのような課題にしたいか、どんな手順で決めたらよいか書いている。		
	0.8 (1.0)	②食についてウェビングをする。	・ウェビングシート	・ウェビングによって課題を考えていく。	・思考の広がりをもったかぎりで書いている。	・いくつかの方向に向かってかぎりで書いている。		
	0.2 (2)	③課題案1を設定し、掲示する。	・掲示課題用紙	・課題案1を掲示し、比較して考えている。	・自然の課題を比較して考えを広げている。	・課題を掲示し、自然の課題を比較している。		
	授業時間外	④友達の課題案1についてのアドバイスカードを書いて貼る。	・友達へのアドバイスカード	・アドバイスカードに意見を書いて貼っている。	・相手意見をもってよさを認め、アドバイスをしている。	・興味な意見を書いて貼っている。		
	1 (3)	⑤アドバイスカードをもとに課題案1を読み直し、課題案2を設定する。	・課題振り直しシート	・アドバイスを参考に課題案2を設定しようとしている。	・他者からの意見を参考にし、自分の課題の問題点、改善点を考えている。	・他者からの意見を参考にし、課題を振り直そうとしている。		
	1 (4)	⑥課題発表会をする。	・発表メモ・質疑応答メモ	・課題を分かりやすいように伝えている。	・課題について意見交換をしている。	・課題を発表し、意見を聞いていている。		
	0.5 (4.0)	⑦課題発表会を受けて、課題案2を振り直す。	・課題振り直しシート	・課題の振り直しをしている。	・質疑応答をもとに課題を振り直している。	・他者の意見を参考に振り直している。		
	0.5 (5)	⑧課題を設定する。	・課題提出シート	・課題とその設定理由について説明している。	・課題の誕生の過程を押さえながら課題とその設定理由を説明している。	・課題とその設定理由について説明している。		
	1 (6)	⑨「課題を作る」活動に対しての評価をする。	・自己評価目標設定カード	・目標に頼らした自己評価をしている。	・活動全体を振り返り自己評価をしている。	・目標に沿って自己評価をしている。		

課題設定段階全体における自己目標

評価目標設定の時間に記入

自己目標の振り返り

振り返りの時間に記入

自己評価目標設定カード 記入例

目標レベル	振り返り
朝、星、晩の食事の大切さについてみんなの意見を参考しながら自分の課題を作る。	課題を食事の大好きにしほって考え始めたのはよかったです。
毎回案が5つ以上は作れるようになります。	最初の段階が3つしか思い浮かばなかったけど、その後はどんどん書けた。
時間内に課題を掲示する。	先生が課題別に貼っていたので、同じような課題でも違っているのが分かった。
いいところを必ず1つ以上、アドバイスも1つは書く。理由も書く。	何人にも書いていると同じになってしまった。個々のことを書くのは難しかった。
アドバイスを参考にする。	みんなの意見は「どうか」と思われるものが多かった。自分にないものは入れた。
自分の課題とどうしてそれをやる必要があるのか理由を説明し、みんなの意見をもらおう。	みんなの質問には大体答えられたけれど、計画を立てるのは大変そうに思えた。
いろいろな意見を参考に最後までできそうな課題を作ること。	自分としては考えた課題ができたと思う。
課題とその設定理由を書く。	みんなから考えるヒントをたくさんもらったので、いろいろな方向から考えられた。
立てた目標について反省する。	プリントやカードを見て、1つずつ思い出しながら反省をすることができた。

自己評価目標設定カード 記入例

課題設定段階全体における自己目標

・ウェビングでいろいろな考えを広げていきたい。
・みんなの意見を聞いて、自分の課題を作る。

自己目標の振り返り

・自分の考えをみんなに知らせるのは、恥ずかしかったけれど、みんなはじめて意見を書いてくれたので参考になった。時間がいっぱいかかったけれど、自分の課題が作れた。

図2 自己評価目標設定カード及び記入例

(5) 学習評価計画表を活用した総合的な学習の時間の指導計画案

モデル例として提示した「単元全体における『自己評価力』を高めるための支援と評価活動を取り入れた計画表」や問題解決段階の各段階における付けたい力ごとに作成した「学習評価計画表」をもとに、具体例として「食生活から生き方を考えてみよう」という単元を考え、単元指導計画案（図3）と学習指導案（次ページ図4）を作成した。

ア 総合的な学習の時間の単元指導計画案

単元指導計画では、単元の総時数を43時間とし、「自己評価力」を高めるための指導・支援の留意点として、意見交換による評価活動を取り入れることを盛り込んだ。

第3学年 総合的な学習の時間の単元指導計画案	
担当者 第3学年担当教員	
1 単元名 「食生活から生き方を考えてみよう」(全43時間)	
2 単元設定の理由	
(1) 生徒の実態 生徒は氾濫するグルメ情報やファーストフードを始めとする流行の食文化に追随することをよしとするような傾向にあるように見受けられる反面、朝食を取らない食生活をしたり、偏食をしたりと、自身の食生活に対する問題意識は低い。また、家族の生活時間のずれなどから、家庭での食事風景も団らんとはほど遠い存在となってきた生徒も増えている。 このようなことから、健康の基盤であるとともに、こころの安定を促すはずの食生活そのもののへの関心の低さが、生徒自身の食生活の軽視につながっているのではないかと考える。	
(2) 教師の願い 自分の今を支え、将来を保障するといつても過言ではない食について、生徒の意識を高め、よりよい食生活について考えさせたい。 また、食生活についていろいろな角度から考えることは、自分のよりよい生き方を考えることにもつながっていくものである。	
3 単元の目標 食についての課題をもとに、調べ学習や体験活動を通して、食生活について考えるとの意義を理解するとともに、自分の食生活について考え、今後の生活に生かすことができる。	
4 単元の学習計画	
(1) 単元全体の目標設定 1時間	
(2) 課題解決学習(課題設定) 食についての課題を作る。 6時間	
(3) 課題追究段階(企画) 学習計画を練る。 8時間	
(4) 課題解決段階(情報活用) 情報収集、選択、活用を行う。 7時間	
(5) 課題解決段階(体験活動) 体験活動を行う。 10時間	
(6) 課題解決段階(表現活動) 問題解決段階全体のまとめ、発表を行う。 10時間	
(7) 単元全体の評価 1時間	
5 指導・支援の留意点 この単元での付けたい力の中心は「自己評価力」であり、その育成のために、意見交換を通じた自己評価や相互評価、他者評価が行われるための学習活動を意図的に組み入れる。 特に教師との意見交換による評価活動が円滑に行われるために、教師の事前準備としての情報の共有化やアドバイスの方向性などの共通理解、生徒学習状況把握のための情報交換を十分行う。	

図3 総合的な学習の時間「食生活から生き方を考えてみよう」の単元指導計画案

イ 総合的な学習の時間の学習指導案

次ページの図4の学習指導案は、課題設定段階の学習評価計画表（前掲の表2）の学習活動②③をもとに作成した、単元の学習計画(2)「食についての課題を作る」ための「ウェビングをして、課題案1を設定する」学習活動の場面のものである。指導過程における教師の指導・支援内容に、意見交換においての教師の助言のポイントを盛り込んだ。

第3学年 総合的な学習の時間 指導案

担当者 第3学年担当教員

- 1 単元名 「食生活から生き方を考えてみよう」(本時 課題設定段階の2/6)
- 2 本時の目標
日常の食生活を振り返り、その問題点、課題を十分考えさせることを通して、食生活について追究してみたい課題案1を作ることができる。
- 3 指導・支援の目標
 - ・課題設定のためのウェビングにおいて、生徒の食についての気付きの広がりを大切にしながら、授業の中で追究する価値のある課題へと焦点化していく。
 - ・生徒の自己評価力を高めるために、対話や面談による意見交換を通しての振り返りや、焦点化の作業を大切にさせる。
 - ・課題を練ることやそのためには意見交換することの意義を理解させる。
- 4 準備物
 - ・白紙ウェビングシート
 - ・課題記入用紙(掲示用)
 - ・想定課題一覧(事前に教員全員で協議し、追究課題として想定した複数の課題と担当者一覧)
 - ・食に関する情報(書籍類、関係団体案内、食に関するパンフレットや新聞記事など)
- 5 評価規準
 - (1) ウェビングシートに食に関する気付きや問題点を連想的に記入していく中で、課題を考えている。
 - (2) 課題案1を掲示することで、学習への責任意識を高めるとともに、自他の課題を比較することで、自分の課題の妥当性について考えている。
- 6 評価基準及び努力を要する生徒への支援
 - (1) ウェビング活動

満足できる	おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
自分の日常の食生活だけでなく、食文化、食品、栄養面など、広がりをもったウェビングをしている。	自分の日常の食生活についてだけではなく、いくつかの方向に向かってウェビングをしている。	教師との対話によって連想が広がるように支援する。

- (2) 課題案掲示活動

満足できる	おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
掲示された複数の課題を比較しながら、それぞれに対しての意見をもつとともに、自分の課題についての見直しをしている。	掲示した自分の課題と似ているものを探し、比較することで、自分の課題についての見直しをしている。	興味ある課題を探し、自分の課題づくりの参考にするように助言する。

7 指導過程

学習活動	教師の指導・支援
①ウェビングシートの中心語句を決め連想を広げる。	①広がりのあるウェビングをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・頻繁に対話、助言をする。 ・食について思い浮かぶことを中心においてウェビングさせる。 ・漠然としたものから焦点化していく段階での展開のつながりを押さえさせる。 ・最初の語句が決まらない生徒には、日常の食事について、取り方やメニューなどについて考えさせる。 ・連想の行き詰った生徒に対しては、新しいシートで最初からウェビングし直すように促す。
②ウェビングした内容を吟味する。	②ウェビング内容の選別、価値付けをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べてすぐ解決することや授業で時間を割くべきものでないことなどといった基準を決めて選別させる。 ・課題案として出てきたものに対して、自分の生活に対しての必要性や生活への応用性などといった基準を決めて、優先順位を付けさせる。 ・選別基準は個別対話によって考えさせる。
③課題案1を決める。	③自分の生活に生かせる課題といった視点で課題案を一つに絞らせる。
④課題案1を掲示し、自他の比較、検討をする。	④自分の課題をよりよくしていくうとする視点をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・公表することの意義について理解させる。 ・他との意見交換による学び合いの視点に気付かせる。 ・次時に課題の練り直しができるように比較、検討させる。

図4 総合的な学習の時間「食生活から生き方を考えてみよう」の学習指導案

(6) 「自己評価力」を高めるための学習評価計画表を活用するための留意点

「自己評価力」を高めるための学習評価計画表をもとに具体的な指導計画を作っていく上で、最も重要なことは、学習評価計画表の中央に位置する学習活動に内包される評価活動欄に示した他者評価（教師からの評価）として展開される教師と生徒との対話を設定することである。

生徒は課題設定のためのウェビングや学習活動の企画、情報活用、体験活動、発表、そして、お互いの相互評価活動を行うが、そのどれをとっても教師の助言が重要になってくる。この助言内容がより的確であるならば生徒の学習は順調に展開され、力も付いていくのである。

生徒の「自己評価力」を高めるための支援の在り方を考えていくとき、基本的な学習評価計画表に沿って展開していく生徒の学習活動を支えるのは、適切な情報提供をすることができるための教師の情報活用能力であり、意見交換によって生徒が学びを深めることのできる教師のコミュニケーション能力であり、指導と評価の一体化のための教師自身の自己評価力にかかっているといつても過言ではない。

このように考えると、具体的な単元計画を作成するときには、授業の指導過程だけではなく、事前準備とそれを踏まえた指導・支援の内容を盛り込むことが重要である。

3 まとめと今後の課題

今回の研究では、生徒の自己評価活動が生徒自身の中で繰り返され、高められていくように、多様な評価活動の導入や計画的な評価時間の設定を考えるとともに、問題解決学習の各段階ごとに生徒の学習活動とそれに対する教師の支援の手立てが一対一で対応するような学習評価計画表のモデル例を作成した。このことで全体の学習活動を見通した「自己評価力」を高めるための手立ての流れを組み立てることができた。しかし、どの段階で、どのような評価活動を取り入れ、組み合わせていくことが「自己評価力」を高めるためにより有効であるのかについては、なお検討を重ねていく必要があると考える。

今後、学校や生徒の実情に合わせて、評価活動の取り入れ方や組み合わせ方を柔軟に変えながら実践を行っていきたいと考えている。また、発達段階に応じた「自己評価力」を高めるための支援を行うためには、小学校における教師のかかわり方や学習経験の蓄積を考慮する必要がある。この視点のもと、小中のつながりを踏まえた総合的な学習の時間の在り方についてもより研究を深めていかなければならないと考える。

【参考文献】

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成10年12月） 改訂版』 国立印刷局 2004

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－総則編－一部補訂』 東京書籍 2004

国立教育政策研究所 『総合的な学習の時間の授業と評価の工夫－評価規準及び評価基準を介した指導の改善、自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けて（第二次報告書）－』 国立教育政策研究所 2004

上杉賢士 シリーズ総合的な学習で「学び」の未来を拓く第1巻『総合学習進化論～12年間で育てる学力～』

明治図書 2004